

平成25年度(2013年度)調査研究

# 各年代における意識の違いと 研修に対するニーズの調査



茨木市教育センタ

## 目次

調査研究の概要 .....	3
設問の設定 .....	4
アンケート結果から見えてきたもの.....	5
自由記述から .....	14
解釈 .....	19
レポート 大阪大学教育社会学研究室.....	20
調査研究に関わって (大阪大学人間科学研究科 中澤 渉准教授) .....	27
平成 25 年度 小・中学校 教師の意識に関するアンケート内容.....	28

## 調査研究の概要

### 1. 調査研究の目的

調査研究については、調査研究所員会が担っており、毎年テーマを決め、それにそって児童生徒や教職員にアンケート等を実施し、調査研究を行っている。

昨年度までのテーマとして、平成 22 年度は、「やる気の出る言葉を探せ」。平成 23 年度は、「小・中のかげはし～小中連携を児童生徒のホンネから考える～」。平成 24 年度は、「世代をつなぐ OJT の実践に向けて～平成生まれの先生方を迎えて～」を挙げた。

今年度は、「各年代における意識の違いと研修に対するニーズの調査」をテーマとした。教職員の意識の違い、特に抱えている悩みと解消方法を明らかにすることで、求められている研修内容や方法をさぐり、その結果、OJT や校内研修等の方向性の指針に活用できればと考えた。

### 2. 調査の内容

年代による違いを見るために教職経験年数で 3 つの年代（3 年未満・3 年以上 10 年未満・10 年以上）に分けた。その上で、それぞれの意識の違いがみられるような設問を設定した。

### 3. 調査の実施

#### (1) 対象

- 茨木市内小中学校に勤めている教員（管理職、講師等も含む）
- 小学校：6 校 中学校：4 校

#### (2) 方法

各学校へのアンケート配布・回答は、本市が平成 21 年度から導入している校務支援ソフト（校務システム）を活用した。回答方法は、校務システム上で各設問の該当する項目を番号で選択できるようにした。

#### (3) 時期

- 配布 ..... 平成 25 年 9 月 19 日（木）
- 実施 ..... 平成 25 年 9 月 19 日（木）～平成 25 年 10 月 7 日（月）
- 回収 ..... 平成 25 年 10 月 7 日（月）

## 設問の設定

### 1. 設定の目的

各年代における意識の違いを明らかにするために、設問内容を「教職員個人の属性について」「教職員が感じていることについて」「教職員が達成度をどう感じているか」「教職員が悩みに対してどうしているか」「校外の研修に対する好き嫌い」「学習指導に関する指導力」「学級経営に関する指導力」「児童・生徒指導に関する指導力」「受けたいと思う研修のテーマ」「研修へのアイデア（自由記述）」とした。

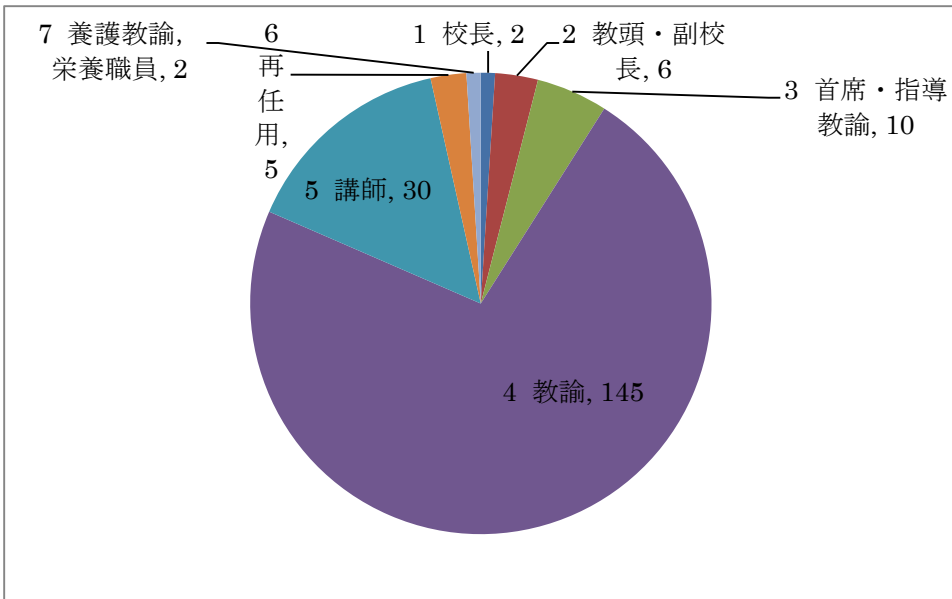
### 2. 設問一覧

1. 校種についてお答えください
2. 性別についてお答えください
3. 教科についてお答えください。小学校は⑩を選択してください。
4. 教職の経験年数を教えてください
5. 講師のご経験がありますか。もしくは今、講師ですか
6. 学級担任の経験はありますか。
7. 教師経験を振り返って、あなたにとって教員としてより多く学ぶ機会となったのはどれですか。
8. 教員としての成長を実感できた時はどんな場面だったでしょうか。
9. あなたを『教員として頑張ろう』と思わせるものは何でしょうか。
10. 教員として今、感じている課題をお聞かせください。
11. あなたは、あなたご自身のこれまでの取組をふりかえったとき、それらの取組にどのくらい満足していますか。
12. あなたは、ご自身のこれまでの取組をふりかえったとき、困ったり悩んだりしたことがどのくらいあったと思いますか。
13. 仕事のことで、困ったり悩んだりしたときに、同じ職場の人に相談をしましたか。
14. 先の質問で7と答えた方は、相談しなかった場合の理由を教えてください。
15. 校外への研修に参加したいですか。
16. 主に校外で行われる研修（府教育センター、茨木市教育センター、茨木市内での地区ブロック研修会等）に参加する頻度はどれくらいですか。
17. ご自身の指導力を高めることができた、と思える場について教えてください。
18. 次にあげる大阪府教育委員会『学校改善のためのガイドライン』授業力向上のためのガイドラインについて、あなたができているかどうかを自己評価して、あてはまる番号に○をつけてください。
19. あなたは、今まで困ったり悩んだりしたことを解決するために、どのような内容の研修があれば役立ったと思いますか。
20. 今までで受けてよかったと感じた研修についてあればその内容をお書きください。

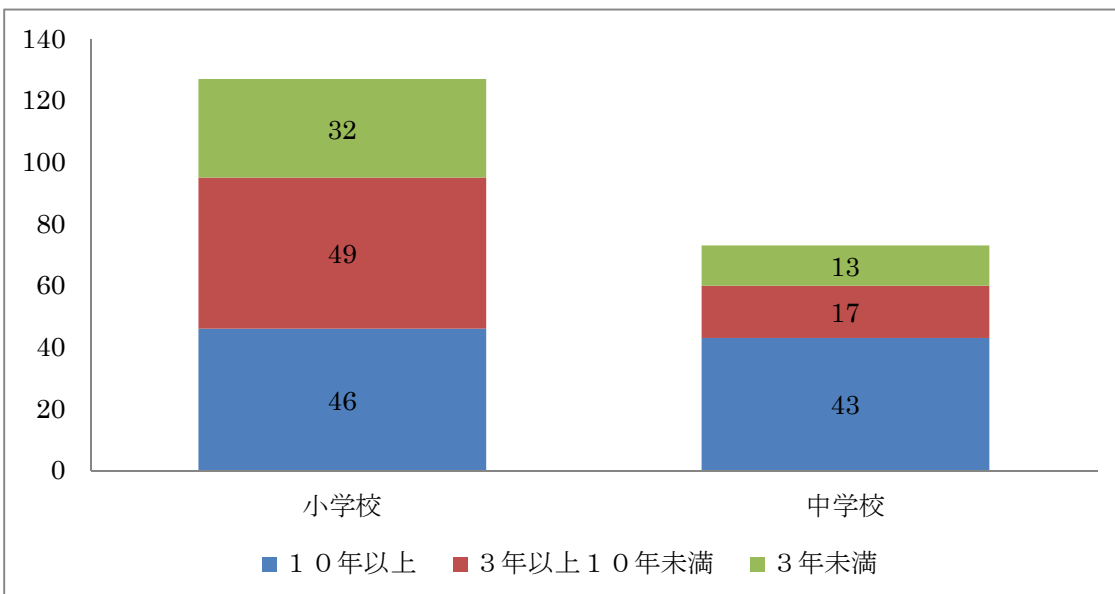
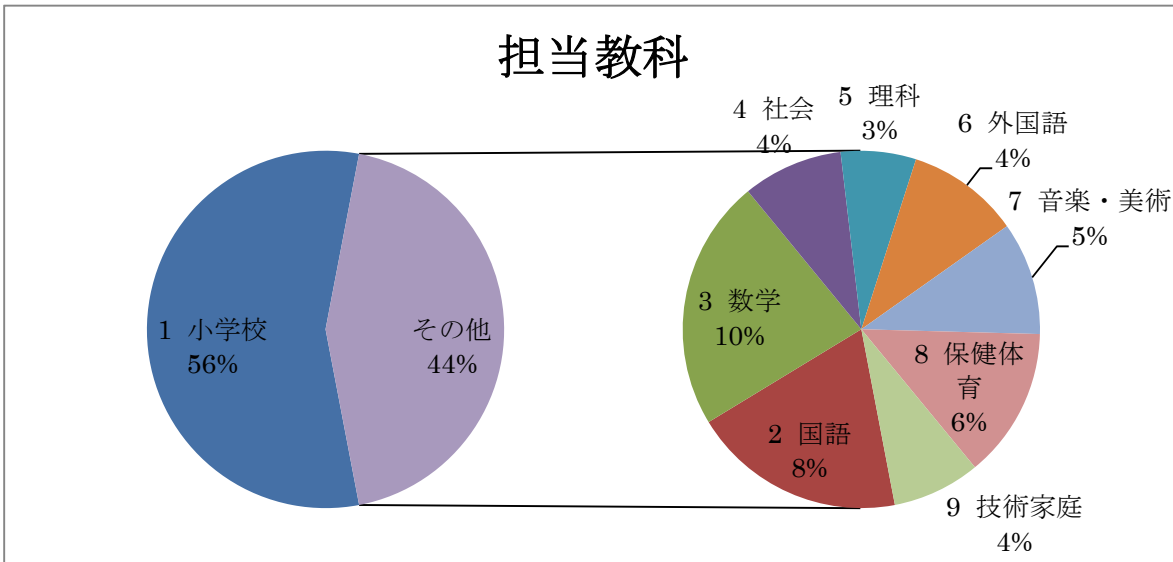
## アンケート結果から見てきたもの

実施したアンケートの結果から見てきた傾向について設問ごとに以下に示す。

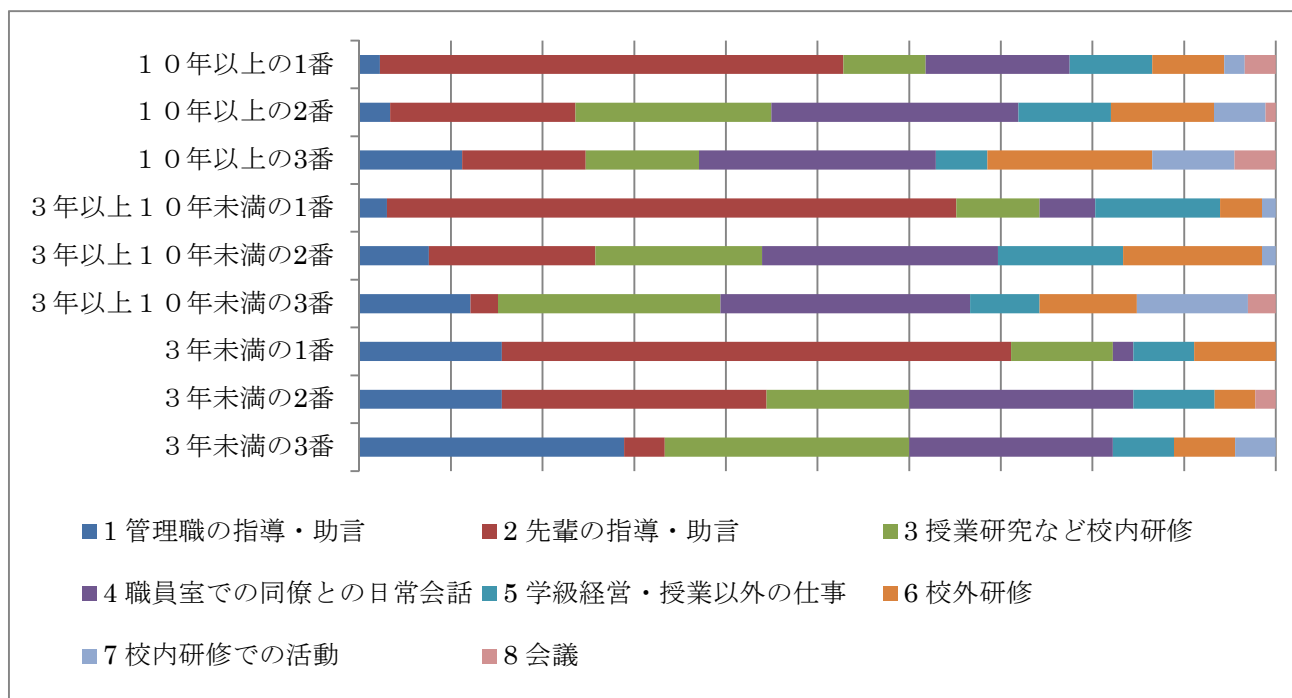
属性に関する設問の結果は、以下のとおりである。(1. ～ 6.)



## 担当教科

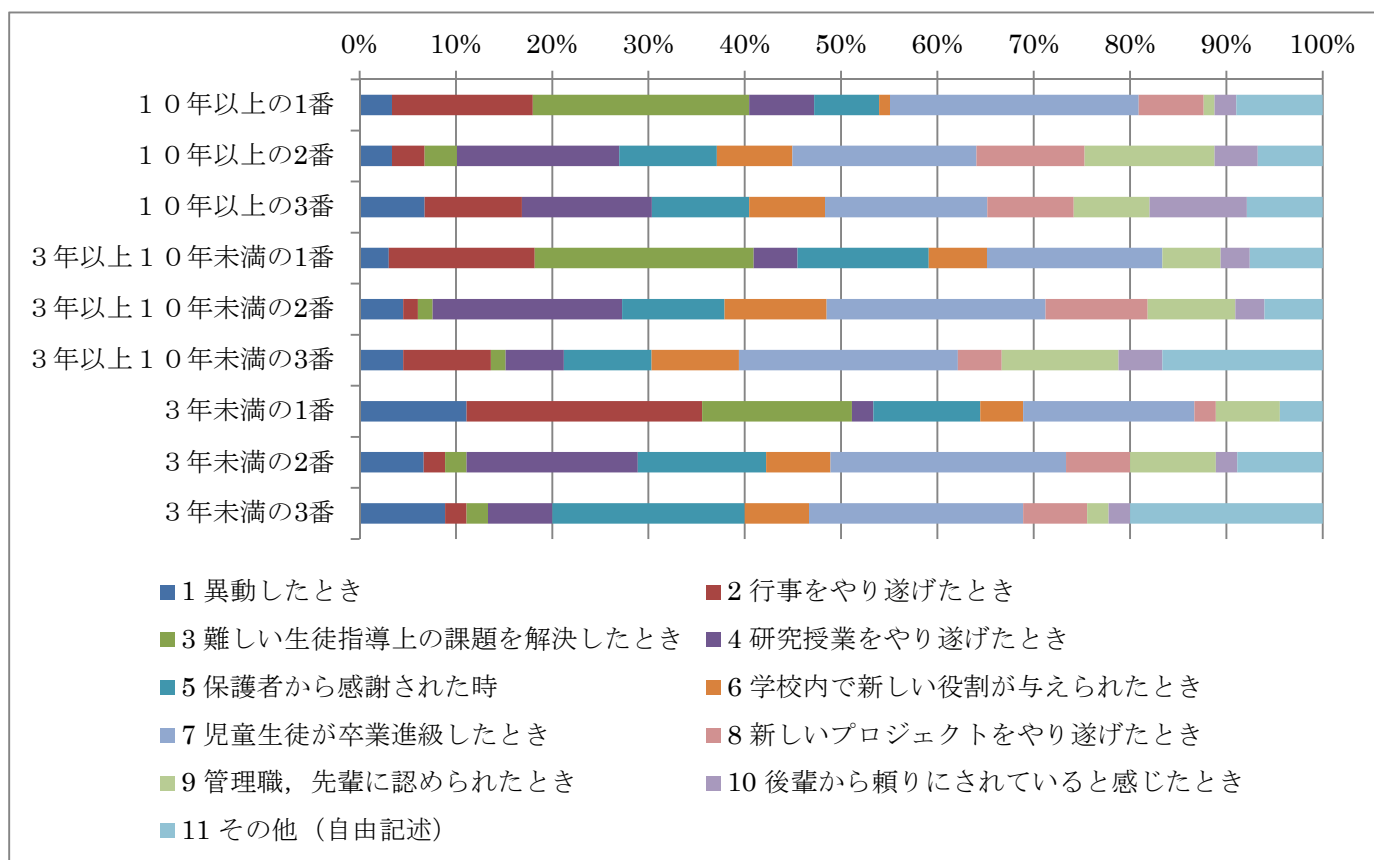


7. 教師経験を振り返って、あなたにとって教員としてより多く学ぶ機会となったのはどれですか。



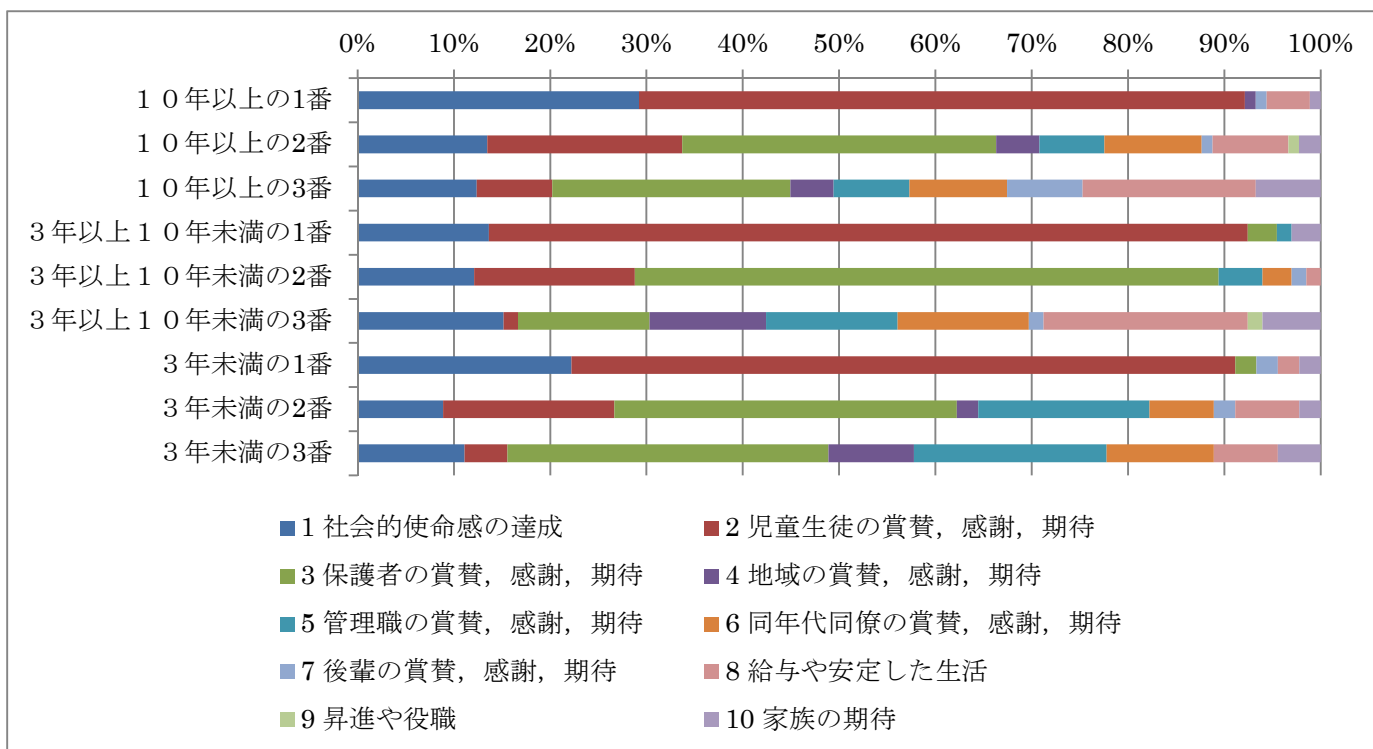
どの年代でも学ぶ機会として、多く選択されていたのは、「先輩の指導・助言」「職員室での同僚との日常会話」の2点である。また、年代の違いとしては、教職経験の短い者ほど管理職に相談する傾向があり10年以上の者は、同項をほぼ選択していない。

8. 教員としての成長を実感できた時はどんな場面だったでしょうか。



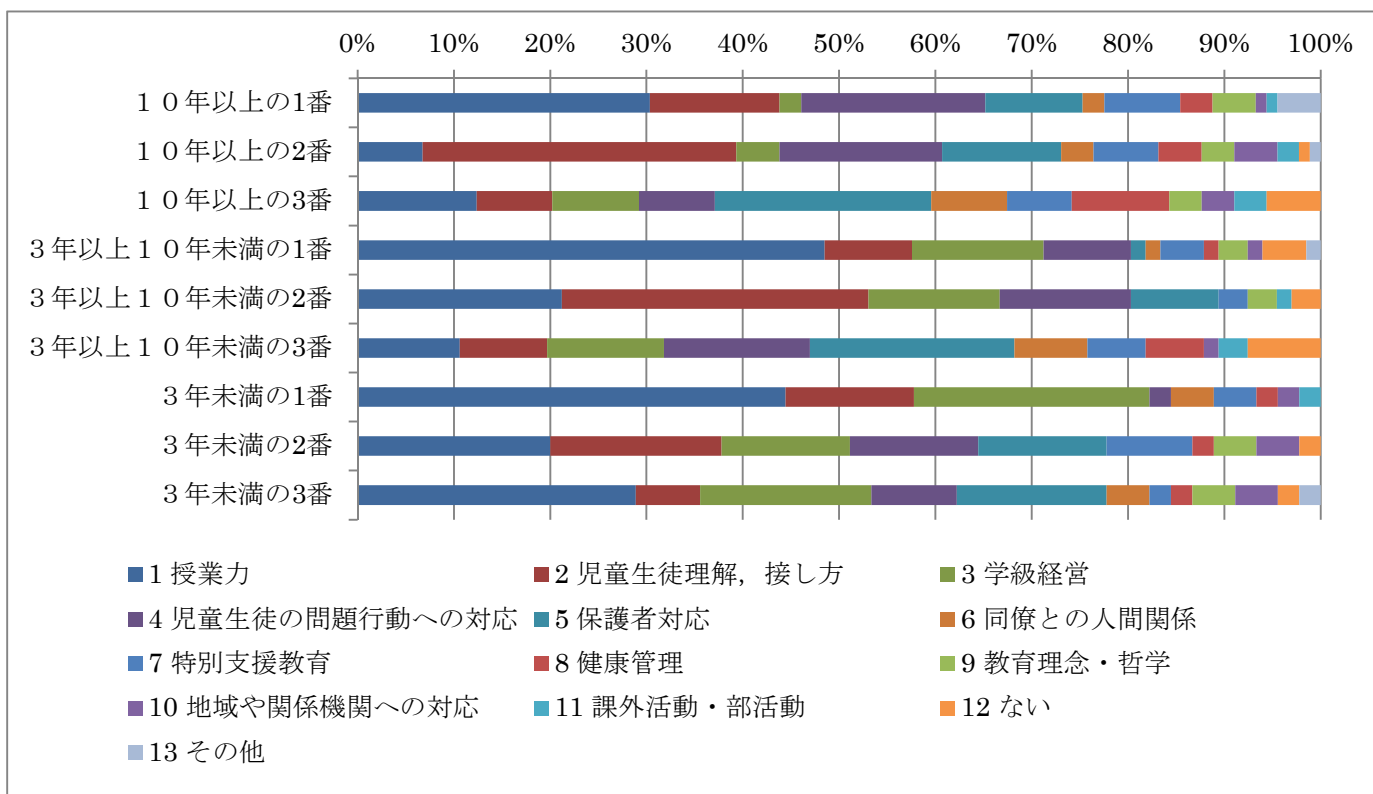
ばらつきがあり、年代による違いもあまり見受けられなかったものの、自由記述から、子どもの変化により実感を得ている教員が多い傾向にある。

9. あなたを『教員として頑張ろう』と思わせるものは何でしょうか。



多くの教員は、やはり児童生徒からの賞賛、感謝、期待が原動力になっているようで、特に3年未満の者が、多く選択している。年代による違いとしては、「社会的使命感の達成」について、10年以上の者がより1番目に選択している傾向がある。また、保護者からの賞賛については、教職経験の短い者ほど選択する傾向があり、10年以上の者はあまり選択していない。

10. 教員として今、感じている課題をお聞かせください。



年代による違いが特に、①から⑤の項目について極端に現れる結果となった。

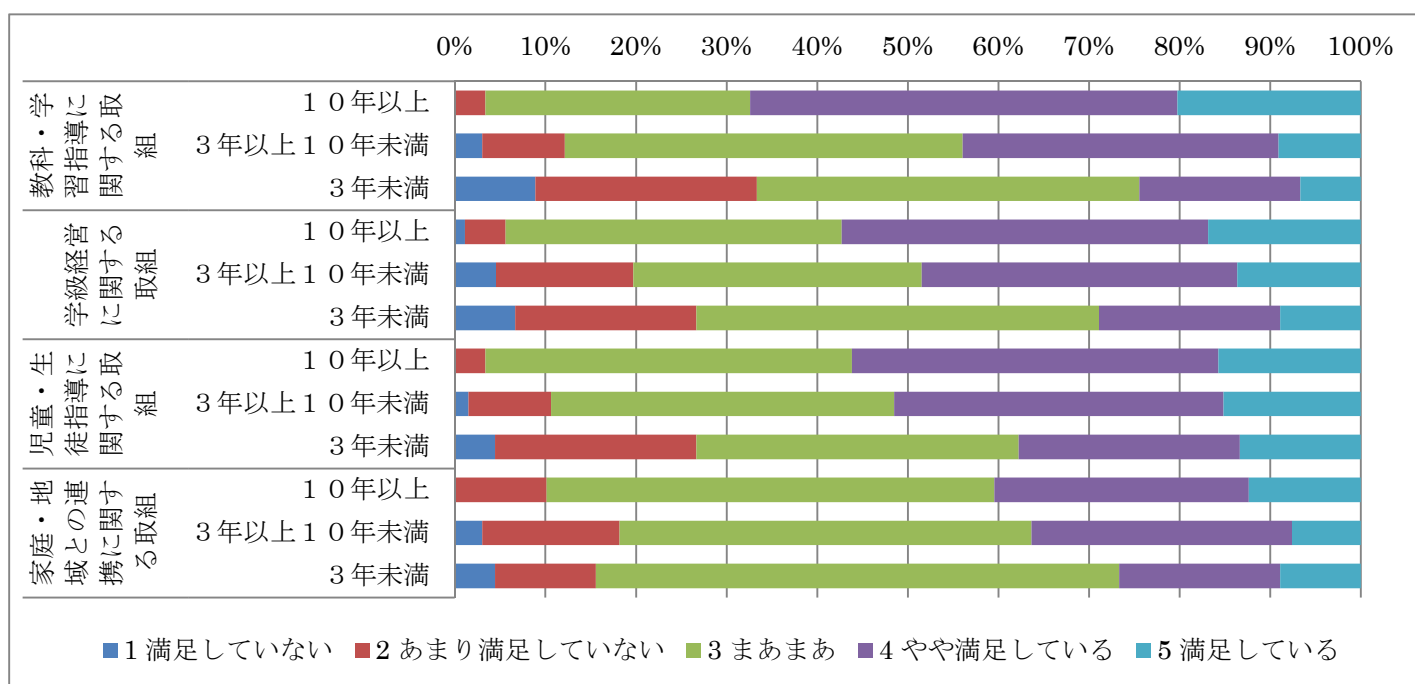
① 授業力について、3年未満の者は、ほとんどが選択しているが、10年以上の者では、同項の選択は50%

以下であった。

- ② 児童生徒理解や接し方について、3年未満の者は、4割程度が選択したが、10年以上の者はその多くが選択していた。
- ③ 学級経営については、10年以上の者は8割が選択していないが、それ以外の各年代では、半数近くが選択していた。
- ④ 児童生徒の問題行動への対応については、10年以上の者が多く選択していたが、この項目については、小中の違いがあると考えられる。
- ⑤ 保護者対応については、教職経験の短い者は、7割が選択していないが、10年以上の者は、5割が選択していた。

また、自由記述からは「ベテランから若手への技術等の伝達についても課題である」と感じている者が多くいた。

11. あなたは、あなたご自身のこれまでの取組をふりかえったとき、それらの取組にどのくらい満足していますか。

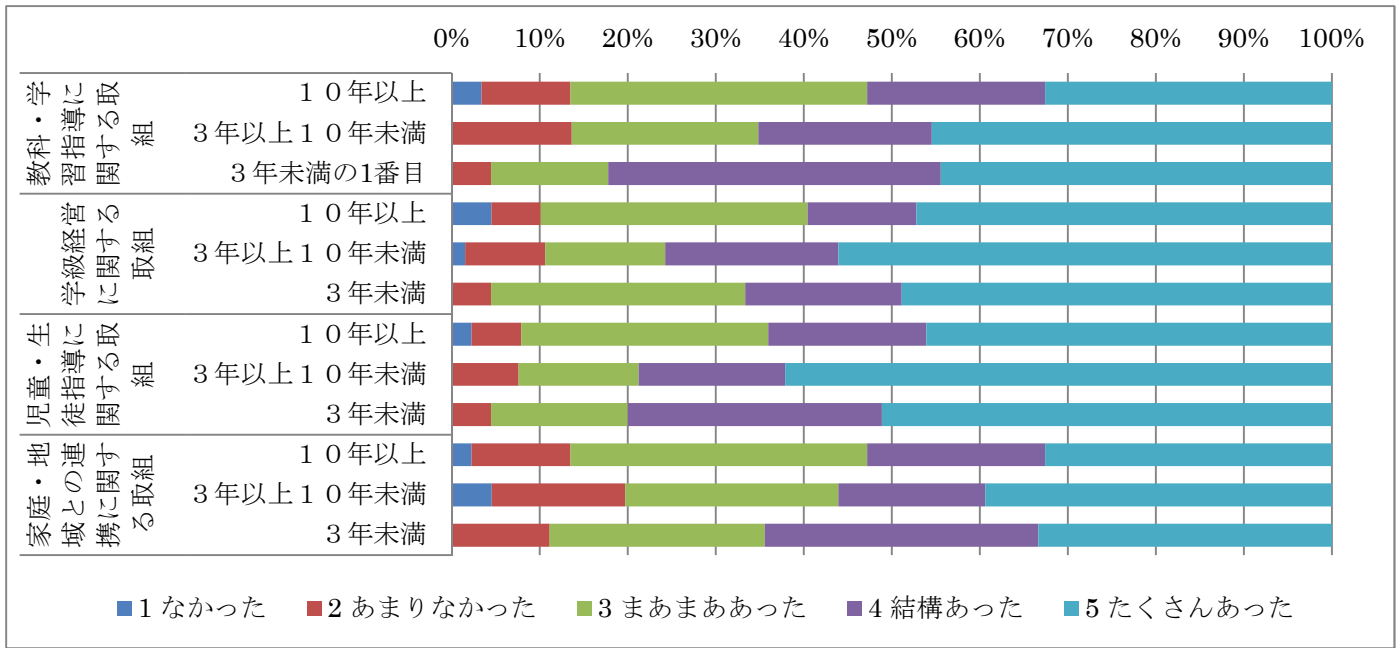


どの取り組みに関しても教職経験年数が豊富な者ほど満足度が高く、経験年数の短い者ほど低い結果になった。特に「教科・学習指導に関する取り組み」について、年代による大きな違いが見受けられた。

※ この項目では、満足度の高い者ほど教職員として継続して勤務しており、満足できず途中でやめている状況もあることを注意したい。



12. あなたは、ご自身のこれまでの取組をふりかえったとき、困ったり悩んだりしたことがどのくらいあったと思いますか。

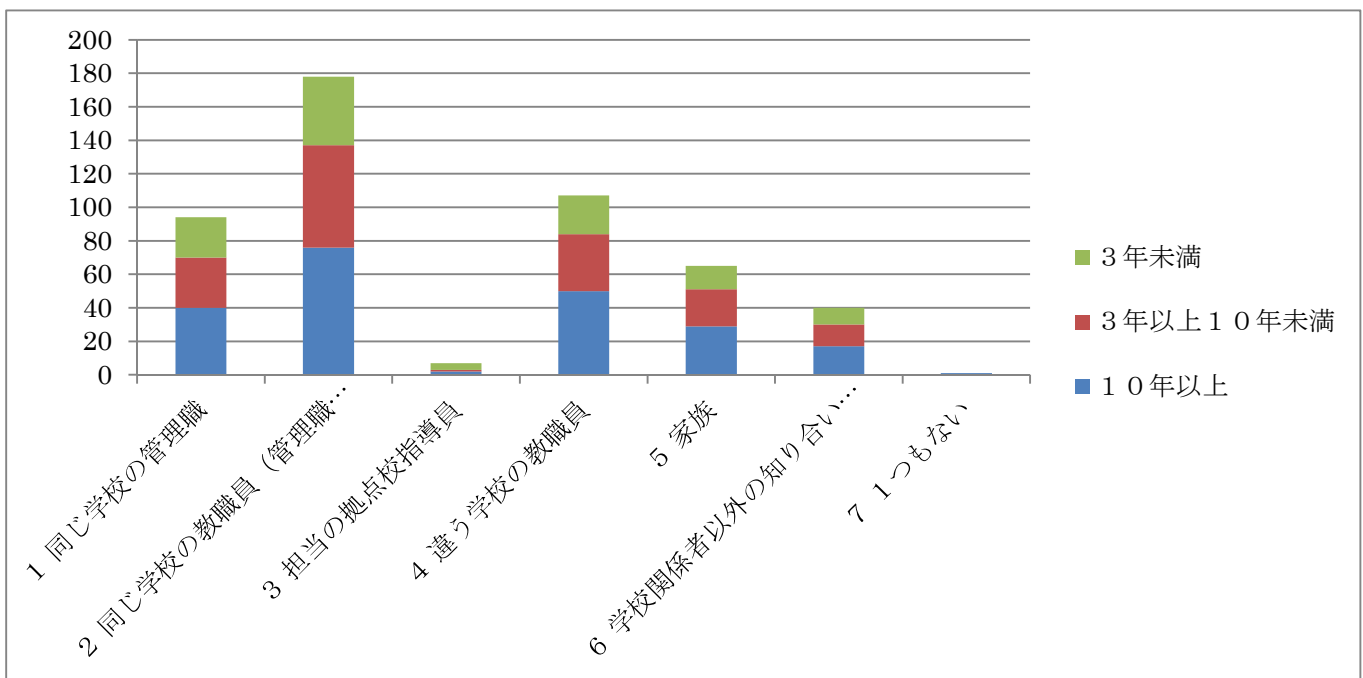


この項目についても、同様に、どの取り組みに関しても経験豊かな者ほど悩みや困り度が低く、経験の短い者ほど高い傾向がある。

しかしながら、「学級経営に関する取り組み」のみ3年以上10年未満の者に高い困り度が見受けられた。これは、ある程度の経験を重ねる年代になると課題のあるクラスを受け持つことになるからではないだろうか。

※ この項目でも、悩みや困り度の低い者ほど教職員として継続して勤務しており、悩みや困り度の高い者は途中でやめている状況もあることを注意したい。

13. 仕事のことで、困ったり悩んだりしたときに、同じ職場の人に相談をしましたか。

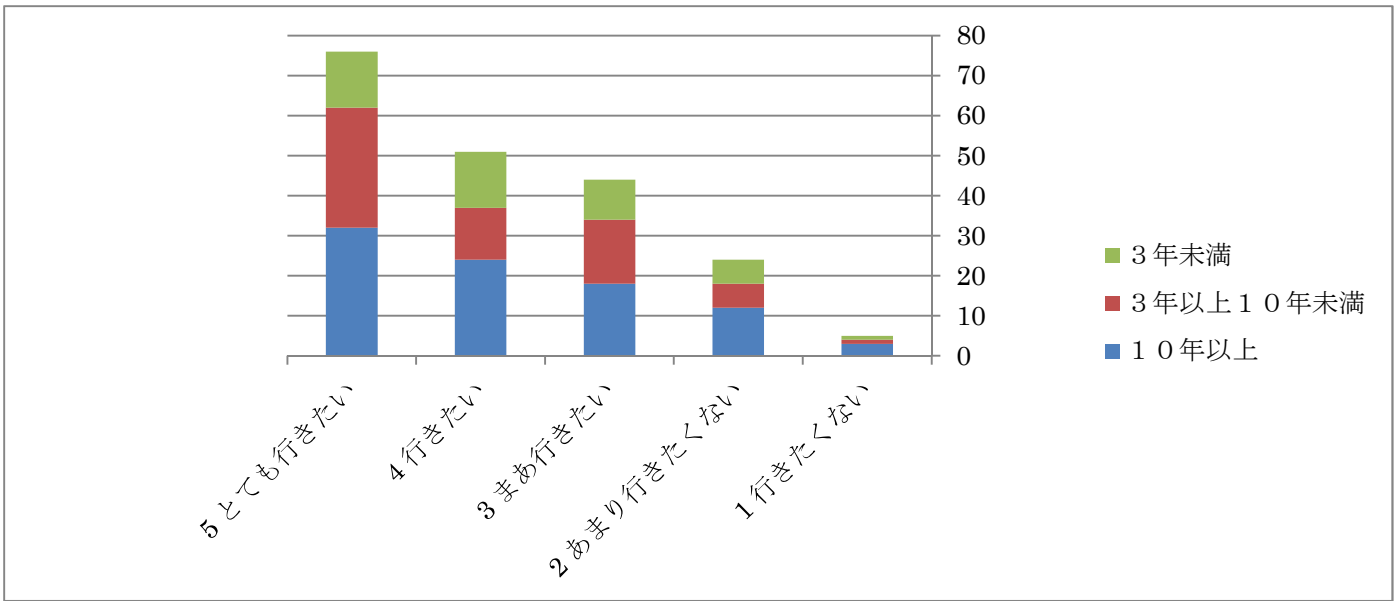


年代による違いはなく、どの年代においても同じ学校の教員を相談相手としていることが多いようだ。

14. 先の質問で7と答えた方は、相談しなかった場合の理由を教えてください。

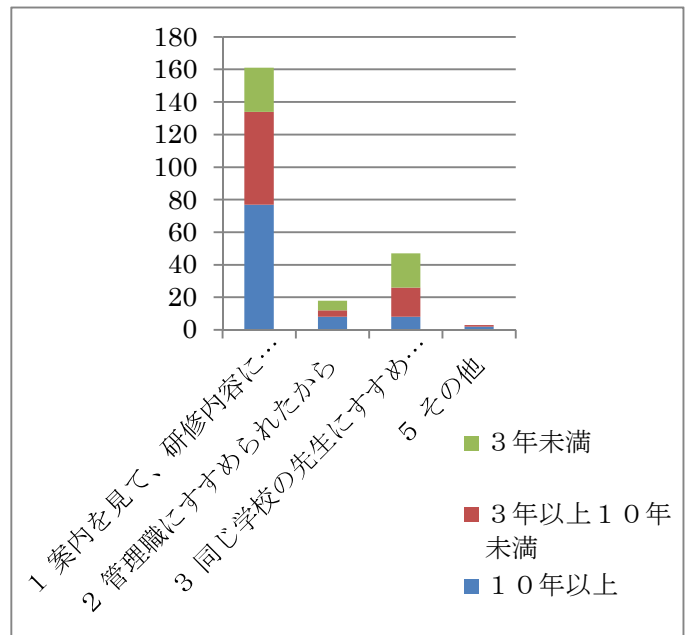
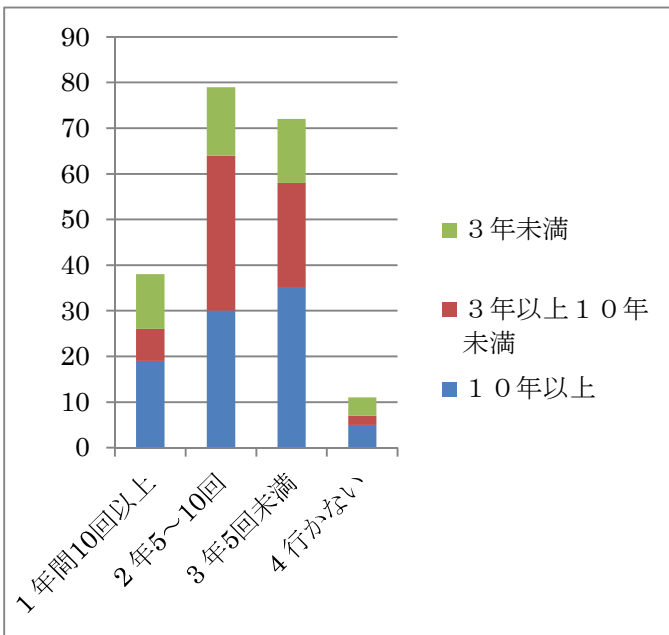
回答はなかった。

15. 校外への研修に参加したいですか。



アンケートに答えた教員の半数以上が、研修には参加したい意思を持っており、年代による違いは、ほとんど見受けられなかった。

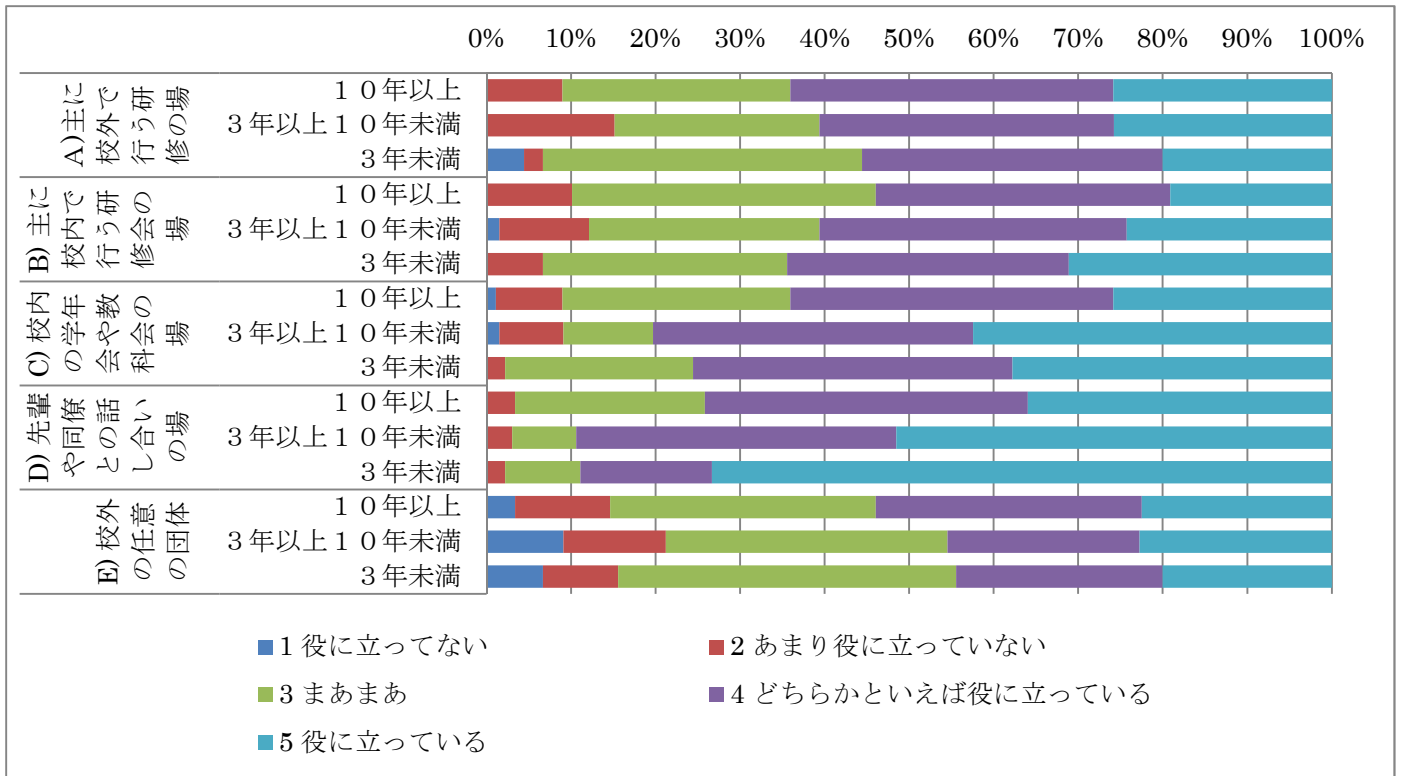
16. 主に校外で行われる研修（府教育センター、茨木市教育センター、茨木市内での地区ブロック研修会等）に参加する頻度はどれくらいですか。



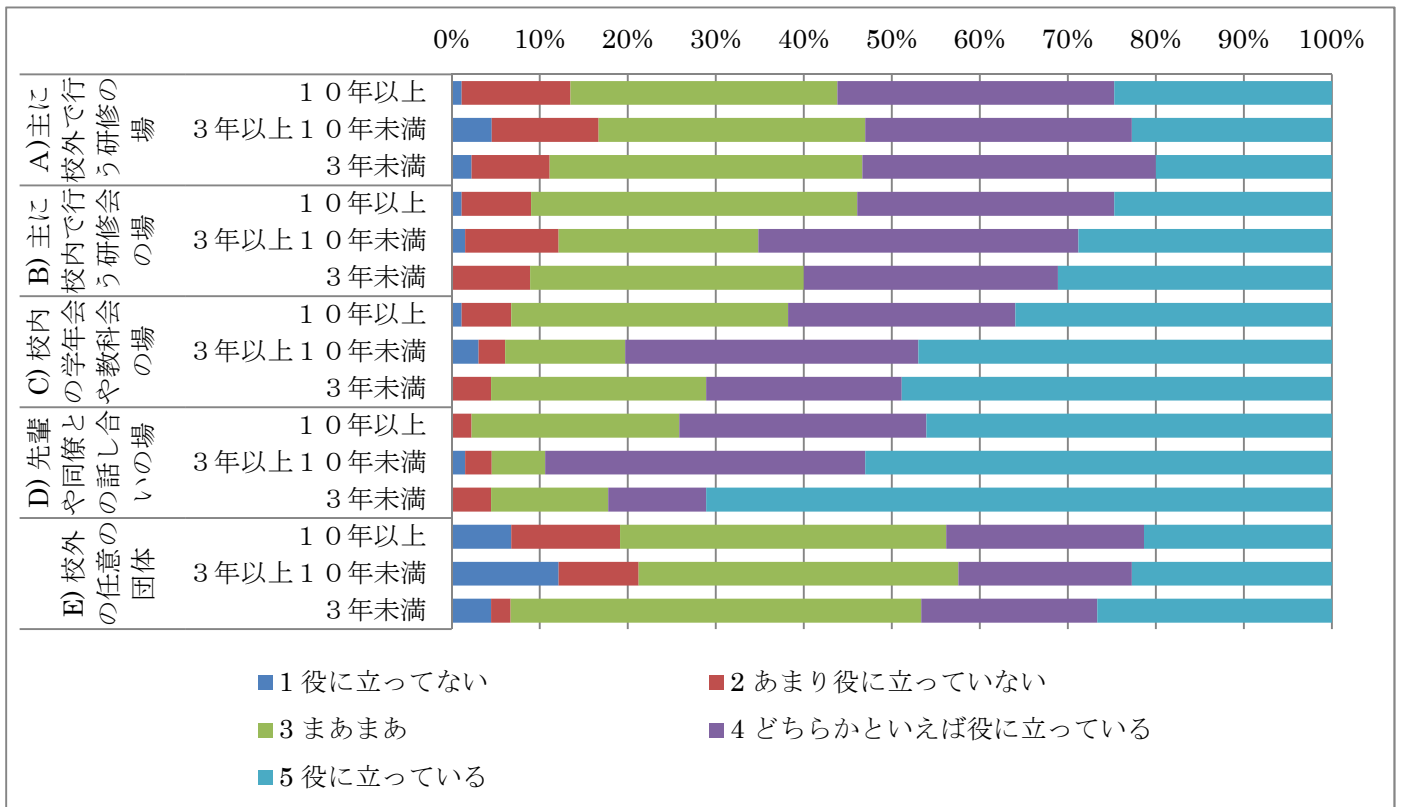
半数以上の教員が、年に数回は研修を受けており、研修の選択についてもその内容を確認したうえで判断し参加している。どちらも年代による違いは、ほとんど無い。

17. ご自身の指導力を高めることができた、と思える場について教えてください。

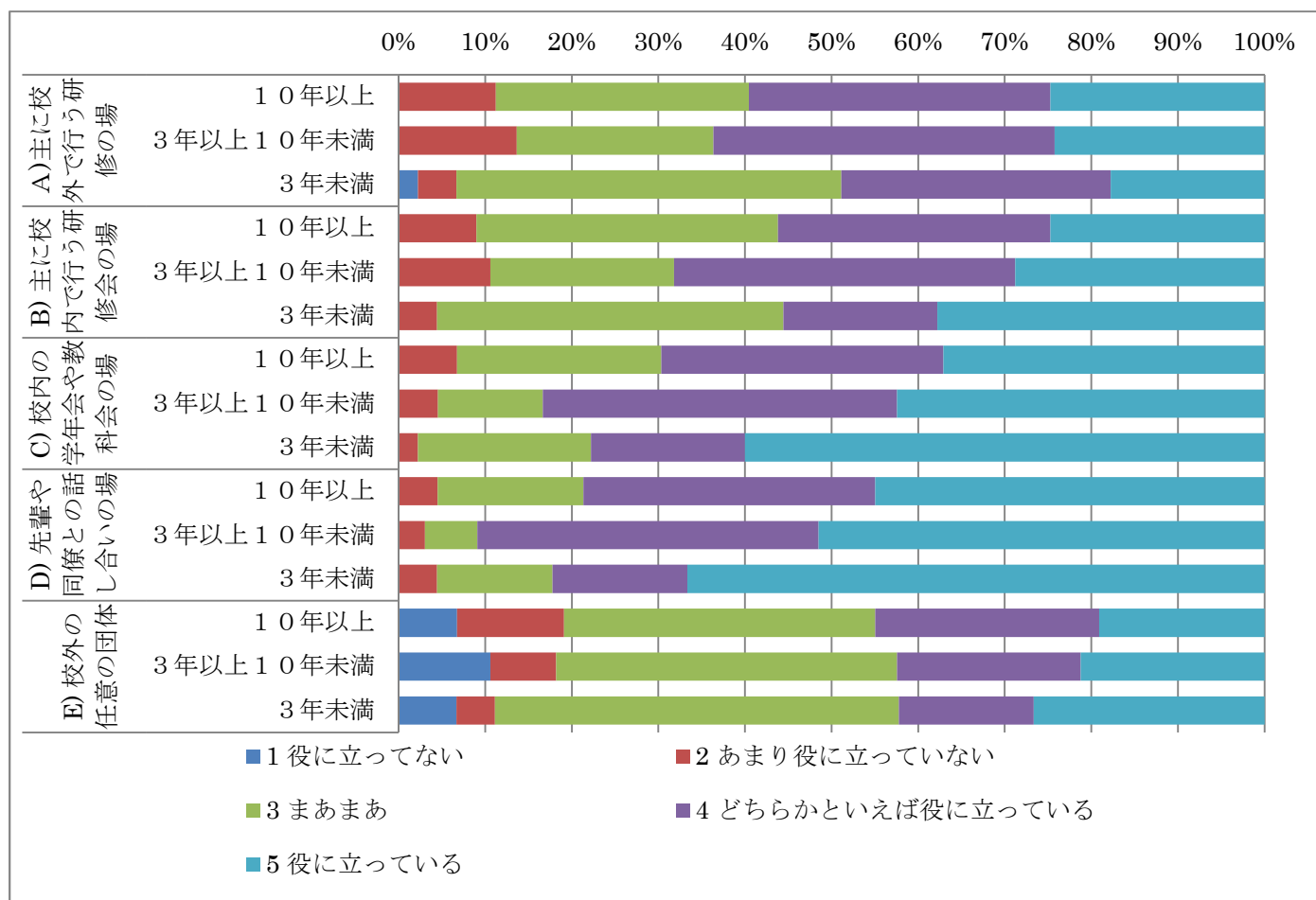
学習指導に関する指導力の研修について



学級経営に関する指導力の研修



## 児童・生徒指導に関する指導力の研修



各項目とも年代による差はないが、どの項目においても「先輩や同僚との話し合いの場」が役立っていると感じている者が多かった。校外や校内で行う研修が役に立たないわけではないが、自分が直面している状況に近いものほど役立つと感じているようだ。

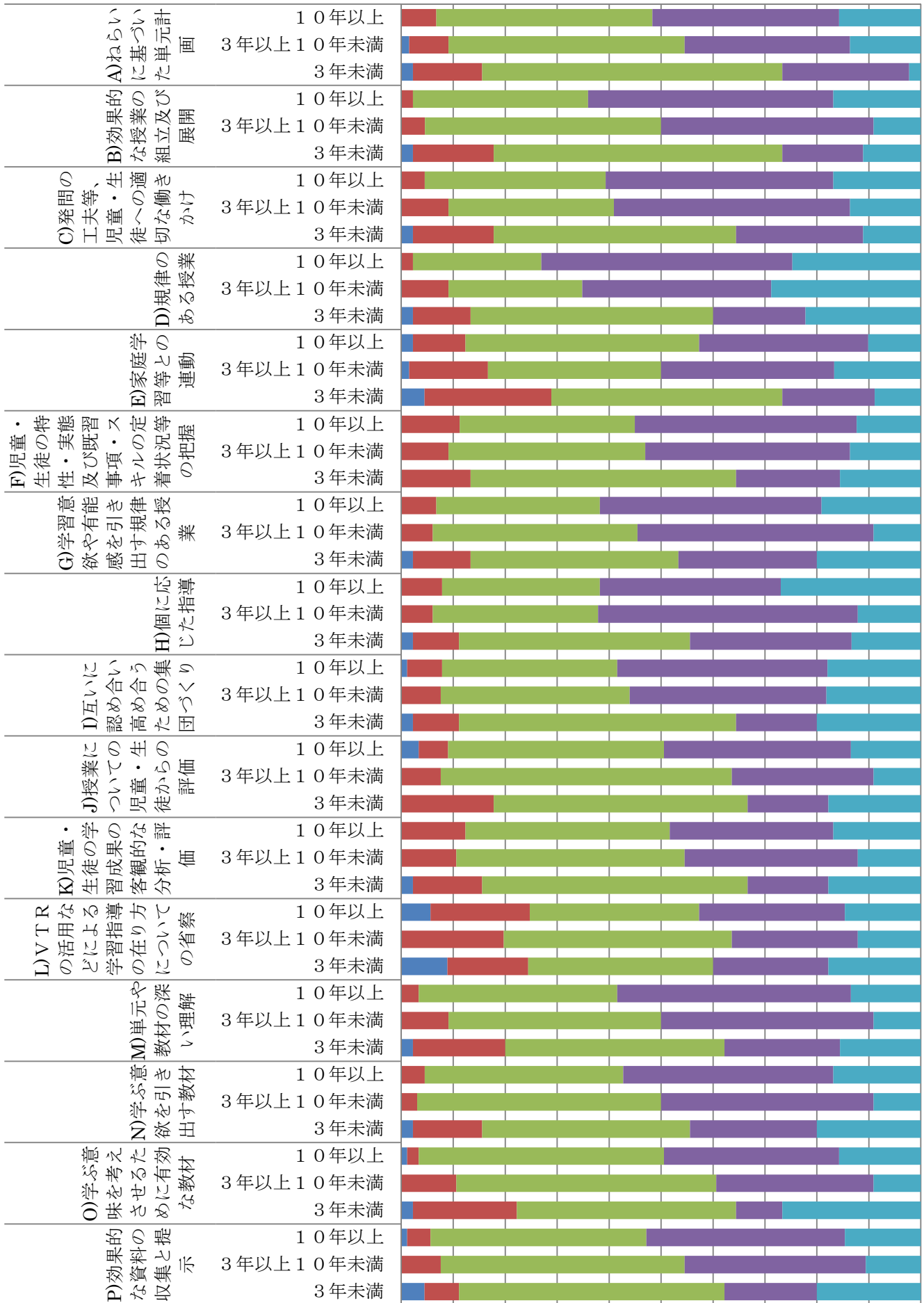
### 18. 次にあげる大阪府教育委員会『学校改善のためのガイドライン』授業力向上のためのガイドラインについて、あなたができているかどうかを自己評価して、あてはまる番号に○をつけてください。

『学校改善のためのガイドライン』に沿った自己評価では、ベテランの者ほど自己評価が高く、若手の者ほど低い傾向が見受けられた。特に授業に関する項目（B～D）では、自己評価に大きく違いがあり、これは、他の設問（10～11）でも見受けられた傾向である。

また、VTR の活用（これは、ICT の活用のイメージで捉えている可能性がある）については、どの年代の者も低い自己評価となっている。

（グラフは次ページ）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ 1 できていない ■ 2 あまりできていない ■ 3 普通 ■ 4 ややできている ■ 5 できている

















































